

サイエンスプログラム1 データサイエンス基礎演習 まとめ ミニ発表会 5月17日～

1年生サイエンスプログラム1の最初のプログラムである科学リテラシー基礎実習のまとめに入りました。68種類の題材から各自が選んだ資料に基づいて、資料の紹介をするための口頭発表資料を作成してきました。

わかりやすい発表するために必要な事項として、さまざまな項目を学びました。私が印象的だったのは、スライドは、『読ませるのではなく、見せるのだ。』ということです。文字数は少なく、目次のように目立つ語のみをスライドに表示し、そこを注目してもらい説明します。インターネット検索サイトのYAHOOのニューストピックスは、見出しが13文字に設定してあるそうです。これも見せる極意だと書かれています。

まとめの授業では、発表資料を工夫し完成したものをいよいよ発表しました。まず、自分の作成した資料をパソコンの画面で見せながら、3人1班で発表し合いました。発表する側は手元の資料やディスプレイばかりに視線をやるのではなく聞き手の目を見て話すことを心がけ、聞き手側はあいづちを打ちながら聞くことを心がけました。発表後には振り返りの時間があり、お互いに良かったところや直すとよいところを言い合いました。

終了後の生徒の感想には「スライドの色のつけ方で大事なところが強調できることがわかった。」「用意していたことに加えてアドリブで話すこともできて嬉しかった。」など、今後の活動に繋がる前向きなものが多かったです。1年生は今後、地域巡検や関西実習で調べたり考えたりしたことをパワーポイントやポスターを用いて発表する活動があります。そのときには今回の経験を踏まえた発表をしてくれることを期待しています。

